

3. 幼い時ほどよく漢字を覚えること

第三の点ですが、一年生が一番良く漢字を覚えるといふことは、私が一年生から六年生迄同じ子供たちを六年間指導することによって発見したものです。一年生の時は誰でも実によく漢字を覚えたのに、学年が進むにつれて段々と覚えが悪くなる事に気付きました。これはその後、昭和40年代の後半から50年にかけて発達した大脳生理学といふ学問がこれを裏づけてくれることになりました。このことについてはこの方面の権威、時実利彦先生(数年前亡くなりました)が『脳の話』(岩波新書)といふ本の中に述べてあつてくれます。それによりますと、人間の記憶の仕方には論理的記銘法と機械的記銘法とありますが、ものを丸暗記する機械的記憶力はゼロ歳から三歳までの間が最高で、三歳をすぎれば年ごとに低下するとおっしゃってあります。私はそれ以前に、子供の実際の指導を通して、その事実を体験してみました。ですから、小学校では一年生が一番多くの漢字を教へて、学年が進むにつれてだんだん減らしてゆけば、子供たちは苦勞しないで漢字が習得できます。ところが今の教育では、一番能力の高い一年生が一番僅かの漢

字を教へられ、丸暗記する力が衰へるに従って多くの漢字を学習させられてあります。これではうまくゆかないのが当然で、これでは中学へ進んでも教科書の読めない児が多くあるわけです。